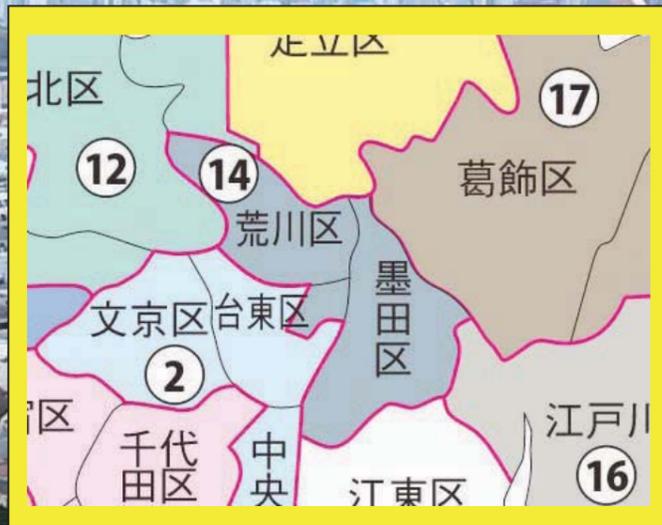


衆議院小選挙区の区割り改定

新東京 14 区

旧東京 14 区



衆議院議員選挙区画定審議会設置法及び公職選挙法の一部を改正する法律の一部を改正する法律（区割り改定法）が平成 29 年 6 月 16 日に公布、施行されました。この法改正は、各選挙区の人口に関して、次回の見直しまでの 5 年間を通じて人口較差（最大と最小の差）を 2 倍未満とすることを目的として行われたものです。6 つの県で小選挙区の数それぞれ 1 減少（0 増 6 減）し、定数は 295 人から 289 人になります。また、比例代表選出議員についても 4 選挙区で定数が 1 減少（0 増 4 減）し、定数は 180 人から 176 人になります。これにより、次の衆議院議員選挙からは、新しい選挙区で選挙が行われます。今回の区割り改定で、台東区の松が谷・千束等の区域が加わって新第 14 区となりますが、荒川区の分割はなかったため、区内の有権者の方々に大きな影響はありません。詳しくは選挙管理委員会のホームページをご覧ください。

荒川区選挙管理委員会のホームページ（「荒川区選挙管理委員会」で検索!!）
<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/kurashi/senkan/index.html>
 選挙についての情報を掲載していますので、ぜひご覧ください。



編集委員

廣瀬 佳子(南千住) 石井 孝治(荒川)
 古俣 睦子(町屋) 相澤 雅子(東尾久)
 石倉 睦美(西尾久) 汲田 政恵(日暮里)
 田代 貢(選挙管理委員会委員長)
 戸田 光昭(選挙管理委員会委員長職務代理者)

平成 29 年 9 月発行
 荒川区明るい選挙推進協議会
 荒川区選挙管理委員会
 〒116-8501
 荒川区荒川 2-2-3
 電話：3802-3111(代表)
 FAX：3802-3124
 登録番号：(29)0034号

選挙・大切な一票

えらぼうと

~Era・vote~

No.6

●「えらぼうと」は「選ぶ」と「vote(投票する)」を組み合わせた造語です



・東京都議会議員選挙詳報

・若者の本音

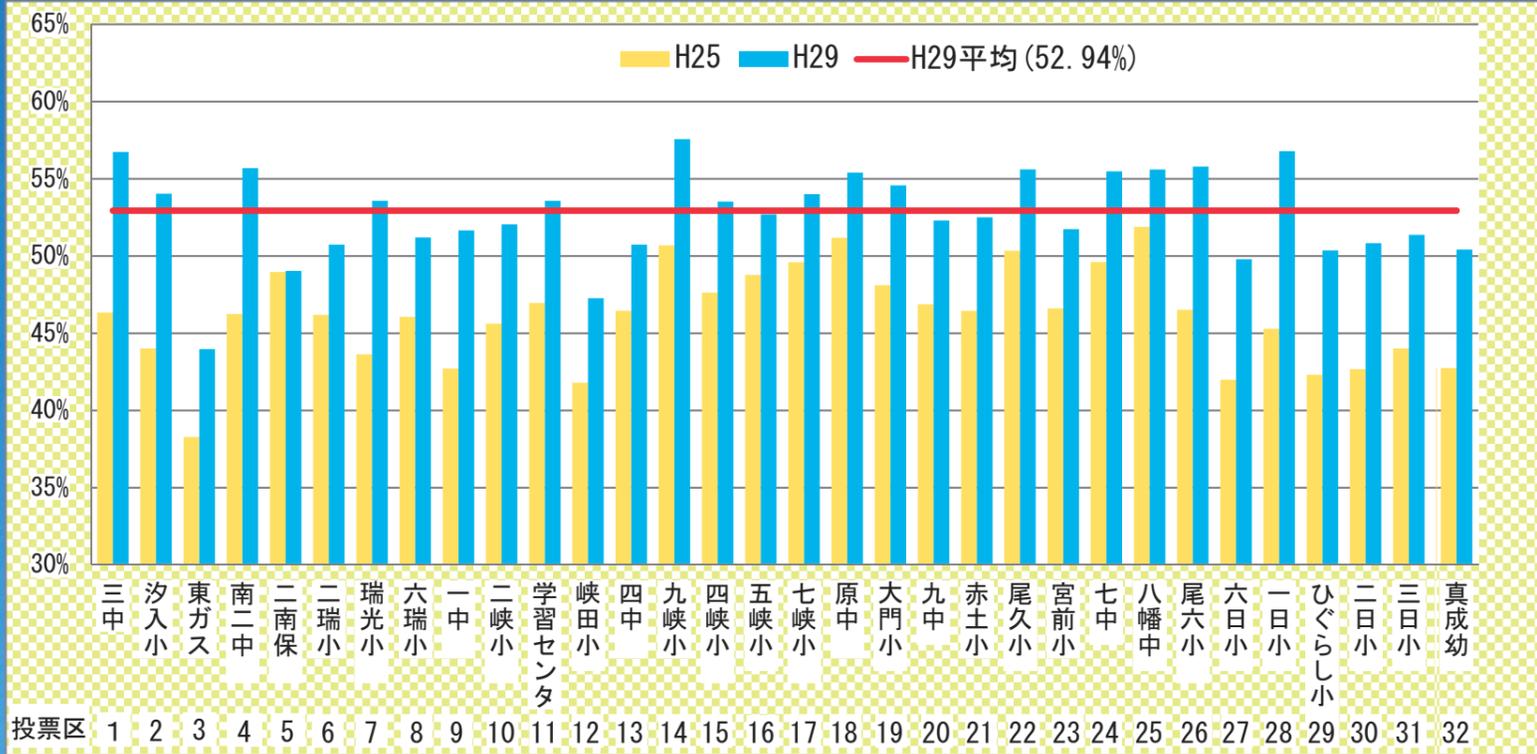
～選挙って僕らにとってどんなものか～

・選挙豆知識 ・衆議院小選挙の区割り改定

東京都議会議員選挙詳報

荒川区投票率：52.94%

① 投票所ごとの投票率

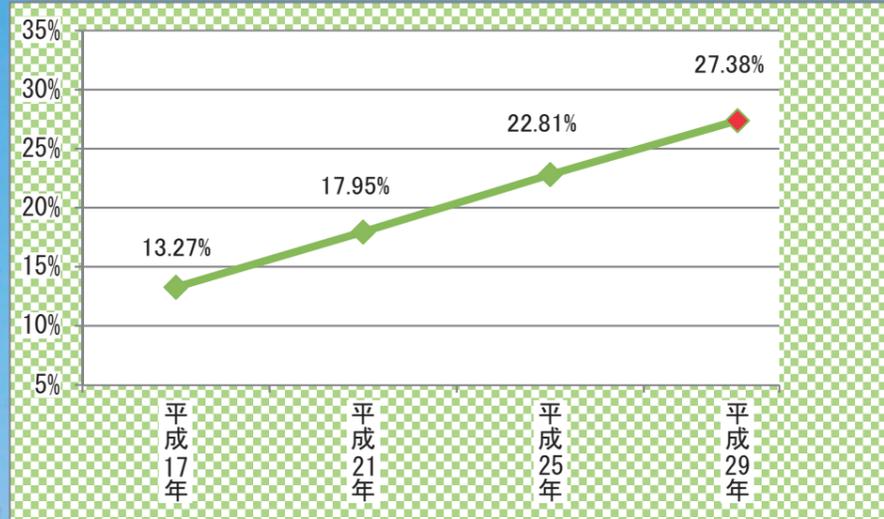


上のグラフからは、ほぼすべての投票区で今回の投票率が前回は大きく上回っていることがわかります。ただし、都議会議員選挙は毎回投票率の増減があるため、今回上がったからといって次回も同じような投票率になるかはわかりません。

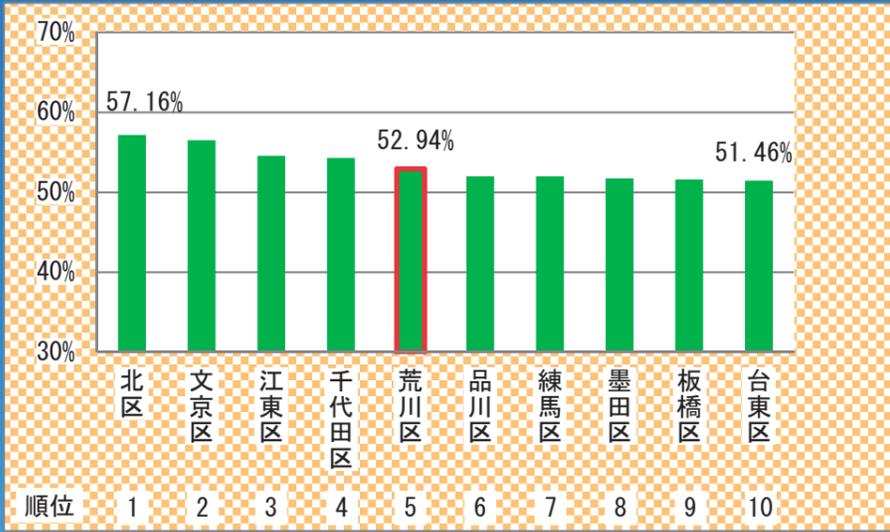
投票率とは違って、安定して上昇しているのが期日前投票を利用する人の割合です。右のグラフは、投票総数の内で期日前投票を利用した人の割合を表しています。このままの勢いでパーセンテージが上がると、次回の都議会議員選挙では約1/3の人が期日前投票を利用することになります。

将来的には期日前投票者数が当日投票者数を超えることもあるのでしょうか。

② 投票総数に占める期日前投票の割合

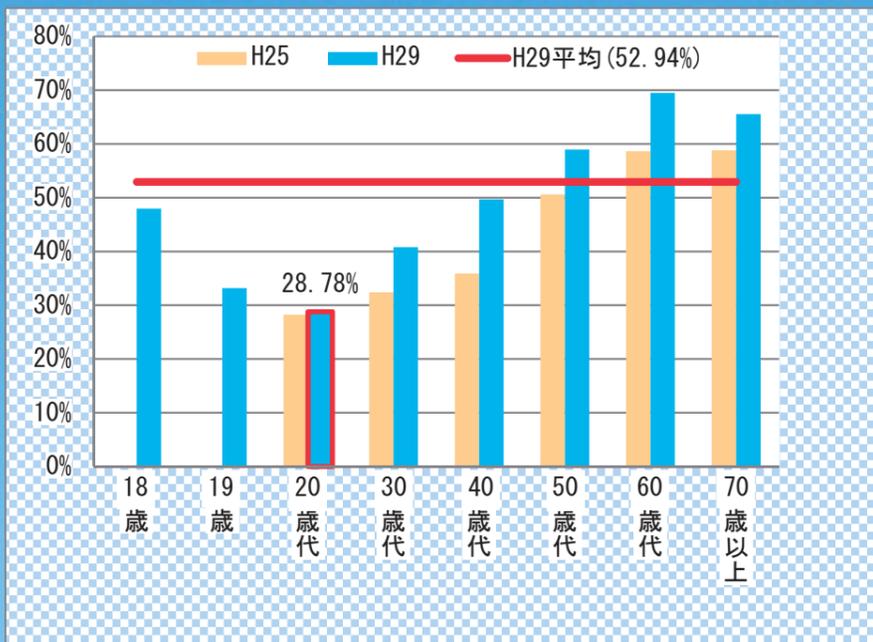


③ 23区中の荒川区の投票率



荒川区の今回の投票率52.94%は、他の区と比べて高いのでしょうか。低いのでしょうか。右のグラフから、荒川区の投票率は高い水準にあることがわかります。次回の選挙では一番を目指したいですね。

④ 年代別投票率



これまでのグラフで、前回から投票率が上がり、他の区と比べても比較的高い投票率を記録したことがわかりました。

それでは、右の年代別投票率を見てみてください。一目瞭然で若い世代の投票率が低いことがわかりますね。どうしてこれほどの世代差が出てくるのでしょうか。次のページでは、若者の本音を聞いてみました。

表紙について

表紙の写真は、選挙時の啓発活動をゆいの森あらかわで行った際の写真です。他にもあらかわ遊園や駅前啓発資材配布などを行いました。表紙中央に写っているのは、明るい選挙を推進するイメージキャラクター「めいすいくん」です。



(あらかわ遊園での啓発の様子)

若者の本音 座談会

～選挙って僕らにとってどんなものか～

昨年、18歳から投票できるようになりました。若い世代の声を政治に反映させる狙いの制度改正でしたが、7月2日の東京都議会議員選挙でも若年層の投票率の低さが数字に表れてしまいました(前頁参照)。そこで、どうして若い世代が投票に行かないのか、本音を聞くために、区内の若者に集まってもらいました。

小林：若い人の話を聞かせてもらうために、今日は3人の方に来ていただきました。よろしくお願いします。

【投票所の印象】

小林：最近選挙ありましたよね。都議選は投票に行かれましたか？

全員：うなずく。

小林：秋本さんは立会人をなさったということだけど、何でやることになったんですか？

秋本：裏の家に住んでいる方から声をかけていただいて、お世話になっている人でもあるし、なかなか経験できることでもないので、参加させていただきました。朝6時半に集合で、夜8時過ぎまでずっと座ってました。

小林：その時の投票所の印象があれば教えてくださいませんか？笑顔を見せた方が良かったり笑いすぎても失礼になったり、難しいですよね。

秋本：昔から父について行っていたのですが、その時から職員がたくさんいるなと思っていました。投票の間中見られている感じがして、私が最初に

投票したときは投票用紙を書く手が震えたりしました。あと、投票所になっている学校のイベントと合わさると行きやすいんじゃないかと思っていました。投票するだけでなく、何かのついでに投票ができると行きやすいなど。

小林：投票所に足を運びやすいような工夫ということですね。

榎村：私も、もう少しアクセスしやすく、友達と遊びに行くついでに行けるような投票所があると、見逃すことがないかなと思っていました。

小林：それはねえ、議論があったところなん



小林 清三郎(選挙管理委員) 長年荒川区で選挙管理委員として活動。座談会司会役。

んです。いろんな条件や制約があるんですが、でもおっしゃる通り、投票所に行きやすくなる仕掛けとか、行きやすい場所に投票所を整えてほしいというのはごもっともだと思います。

榎村：場所の整備に関して難しいということはお話を聞いてわかったんですけど、他の国ではデジタル化が進んでいるところもあると思うんですよ。でも私が行った投票では全て、投票用紙に書いて投票するというシステムでした。科学技術を使ってもっと負担を減らす方法で投票所を整備できればいいんじゃないかと思いました。

小林：ご指摘の通り、アナログな投票というのが現状ですね。ただ、皆さんが当日投票に行かれた時に、まず最初に投票所整理券を見せますよね。その受付が今回からデジタル化されて、バーコードを読む方法に変わったんですよ。万全の準備で慎重に、だけども前向きに少しずつ変えていかないといけない。だから「少しずつ」の対応になるんだけどね。ところで期日前投票所って区内7か所ありますが、どこで投票するか知ってますか？

秋本：私知らないです。いつから行けるかも全然わかりません。

小林：区役所だと、告示の日の翌日からできるんですよ。他の場所はそれより数日遅れるけど。さあ、行くとしたらどの期日前投票所に行きますか？

秋本：・・・近いところですかね。

小林：実はどこで投票してもいいんですよ。7か所と選挙管理委員会をオンラインで結んで投票の管理をしていて、もちろん本人確認の意味もあっていろいろ書いてもらうことはあるけれど、簡単に投票できるんですよ。

中軍：期日前投票の制度を一からわかりやすく説明してくれれば、若者もそういうものがあるということがわかるので、投票する人も増えると思います。

小林：若者向けの期日前投票のPRが足りないというのはあるかもしれないね。

秋本：私が立会人をやらせていただいた時に思ったのは、投票所の横の壁に〇時台〇〇パーセントという速報を出すんですけど、その下の方に期日前投票〇〇パーセントと書いてあるんです。当日投票だけの投票率はあまり高くないので、投票所で当日投票率だけ見てがっかりして帰る人も多かったです。期日前投票の投票率も大きく書いてあげると、その地区の本当の投票率がわかりやすいと思いました。



秋本 怜子(カフェ店員) 今回の選挙では投票所の立会人を務めた。

小林：例えば「3万人の方が期日前ですでに投票されています。それは有権者の内の何パーセントです」という表示をすると、そういう制度があるってということの宣伝にもなる。それは貴重な意見だな。

【若者の情報源】

榎村：今お話にあったような情報を、普通は新聞やニュースで得ると思うんですけど、最近はSNSとかに広告ってあるじゃないですか。そこで情報発信したら若者に浸透するんじゃないかなと思います。新聞を読んでいる人は減っているわけだし、若者がよく利用するのはネットやSNSだと思うので、広告料はかかると思うんですけど、そこにお金を使って宣伝をするといいんじゃないかなと思います。

中軍：選挙って周りの自治体と同時に行うものもあると思うので、協力して少しずつお金を出し合えば、可能じゃないかと思いました。

小林：若者がよくアクセスするところに時間とお金をつぎ込んでください、ということだと思うけど、じゃあ皆さんはどうやって情報を得ているか、もう少し聞かせてもらいたいです。新聞はあまり読まない？

秋本：あまり読まないですね。

中軍：私はとってないです。スマホでネットニュースを見ています。

榎村：私は夕方のニュースを見たりしています。あとはSNSのモーメントという機能で、今多くの方が呟いている注目の項目をみることができ

るんです。見せた方が早いかな。(スマホを操作して説明) こういうところで発信すれば若者の目に留まると思うんですよ。若者の困っている声って、こういうところで発信されて、ネットの中ですぐ拡散されるんですよ。政治家の人がどういう風に情報を得ているかはわからないですけど、例えば新聞記者がネットを見て記事にして、それを政治家が見てやっとコメントをするというのだと、情報のスピードについてこれていないかなと思います。それだと若い人とはうまくつながらないと思うので、SNSとかも活用してもらえるといいなと思っています。

小林：情報のスピード感って年齢によっても違うんですね。

【政治へのイメージ】

秋本：私は投票するときに、「この人はこういうことがしたいんだな」ということがわからなくて、父から、「この人は人柄がよかったよ」



榎村 ゆめ(大学生) 政治経済学部所属。今回の選挙では啓発活動にボランティアで参加。



中軍 友希(荒川区職員) 29年度採用。国保年金課所属。今回の選挙で期日前投票所と開票所で従事。

とか聞くと、そういう理由で投票しちゃっていません。

樫村：私も選挙の時はそれが気になっていて、子育てを応援しますといわれても、具体的に何をするか分からないので、それに対して賛成できるかどうか分からないまま雰囲気を選ぶしかない状態でした。だからもっと具体的に、例えば保育所をこういう風な手順で増やしますと言ってくれると、わかりやすいかなと思います。

小林：ただ「日本を良くします」と言ったって、当たり前じゃないかということだね。選挙に行く気になるかならないかは、選挙の中身の話なわけで、政治家なり政党の役目だよね。選挙に行ってみようと思える政策を示してほしいということかな。

中軍：でも若い世代の人って普段政治の話とか全くしないですよ。

小林：えっ、しないの？

全員：しないです。

小林：政治って日常生活に関わっているものでしょ？秋本さんはカフェで働いていて、こういうケーキを出したりもしているでしょう。そうすると日本の食糧自給率のこととか知らない？例えばそういうことも農業政策等で決まってくるわけで、いちいち意識して「政治の議論しよう」なんて話じゃないけど、切っても切り離せない話題だと思うけどな。

樫村：若い世代が政治を避けるのは二つ理由があると思っています、一つ目が、候補の方たちが、それが全てではないけど、年代も性別も違うと、遠い世界に感じられて、自分たちに関係無いと思ってしまうということです。国会を見ても同じような人ばかりがいるので、もっといろんな世代を入れないと、距離を感じてしまうと思います。二つ目の理由としては、私も私の友達も争いごとを避けるので、政治の話になると意見が衝突するというイメージから避けているのかもしれない。例えば今のような雰囲気では話せばいいのにとおもいます。

秋本：私は政治家に対してあまりいい印象がないです。



(SNSのモーメントをみんなで覗き込む様子)

いいこともしていると思うんですけど、悪いことばかりが取り上げられているじゃないですか。それがすごいスピードで拡散されていくじゃないですか。だから悪い情報だけが入ってきていいイメージを持ってないということはあると思います。

小林：マスコミの取り上げ方にも問題があるのかもしれないね。

【座談会を終えた感想】

中軍：政治は堅苦しいイメージがあるので、子どものころからそれを払拭するような教育も必要じゃないかと思いました。すぐに効果は出ないかもしれないけど、そういう教育が一つのやり方なのかなと思いました。

秋本：普段、政治や選挙のことを知る機会が無くて同年代と話す機会もないので、いろんな人の意見を聞けるこういう機会がとても大切だと思いました。

樫村：投票環境についての話もしたんですけど、いくら環境が整っても本人が投票に行かないと投票率は上がらないので、私たちにも何かしなきゃいけない責任があるんじゃないかなって思いました。

小林：政治は広がりがあって、生活の中で関わってくる話だ、ということをお分かりいただけたらありがたいです。また集まってお話を聞けたらいいなと思いました。今日はどうもありがとう。

選挙管理委員会まとめ

今回の3人の意見は若者の意見の一部だと思いますが、平成26年衆議院選挙時の調べでは、20代の棄権理由1位「選挙にあまり関心がなかったから」、2位「仕事があったから」、3位「適当な候補者も政党もなかったから」と、3人の意見は全国統計データとも、おおむね合致していることがわかります。

この座談会で出た貴重な意見を謙虚に受け止めて、選挙管理委員会として出来ることから対応してまいります。また今後もこのような機会を設けて、積極的に若者の意見を聞き、より効果的な啓発活動を行って、投票率向上につなげていきます。

この座談会は、平成29年8月22日ゆいの森あらかわ1F、Cafe de CRIE PLUSにおいて行われました。当初の予定時間を超えて、白熱した話し合いが行われました。貴重なご意見ありがとうございました。



(今年3月オープンしたゆいの森あらかわ)

選挙制度は複雑怪奇!!知っているどちよつと得するかも。

選挙豆知識

その一、早すぎる「当確」情報の不思議

選挙の「当選確実」情報が、開票開始の直後(場合によっては開票開始前)に出ることについて、不思議に感じたことのある人は多いだろう。名前を出さない約束で、ある報道機関に取材をしたところ、次のようなことを教えてくれた。

- 1 選挙戦が始まると、立候補者の実績、支援団体、知名度などについて、独自に世論調査や電話アンケートを行い、投票行動の分析をする。
- 2 候補者陣営への取材を行い、情報を聞き出す。
- 3 期日前投票が始まると出口調査を行う。
- 4 投票日当日もちろん出口調査を行う。
- 5 混戦の場合、開票が始まると、開票所内で双眼鏡を使って候補者別に分けられた票を確認する。

アンケートや出口調査の必要件数は統計学から算出されており、このようなデータと、当日の天候・投票率などを総合的に考慮して、当確の判断をしているとのことだった。他社よりも早く当確情報を出すために多大な労力を費やして努力していることがわかる。

その努力に対して称賛を送りたい一方で、開票率0%の状態でも当確情報が流れるのは、開票を行う選挙管理委員会としては複雑な思いになってしまう。

